

コミュニティバスの現状と利用促進に向けた研究

—栃木県日光市を事例として—

コミュニティバスは自治体が主体となって運行しているが、利用客の少なさが課題となっている。栃木県日光市を走るコミュニティバス〈日光市営バス〉も同様に、利用客が減少傾向であり課題となっている。しかし、中には沿線に観光施設を持つ路線も存在し、一部の路線で観光客向けの企画乗車券を導入している。そこで、日光市営バスの中でも沿線に観光施設を持つ路線では、どのような取り組みを行うことでバスの利用客増加に繋がられるのかという問いを立てた。それに対し、観光客をターゲットにした多様な種類の企画乗車券を導入することで、バスの利用客増加に繋がられるという仮説を立てた。

第1章では路線バスにおける観光利用の重要性を明らかにした。第2章では日光市営バスの現状について既存の資料から調査、分析を行った。第3章では公共交通機関に企画乗車券を導入している自治体や企業へ調査を行い、企画乗車券の導入が成功する要因を分析した。第4章では日光市役所へ調査を行い、日光市営バスで導入している企画乗車券の効果と今後の動向を明らかにした。

その結果、沿線に観光施設を持つ路線バスでは、観光客をターゲットにした利用促進策を採ることが重要であること、多様な種類の企画乗車券の導入が公共交通の利用促進に効果があったこと、日光市営バスへの企画乗車券導入はバスの利用促進に繋がったことが明らかとなった。

以上の結果から、沿線に観光施設を持つ路線で観光客を対象とした多様な種類の企画乗車券の導入は、日光市営バスの利用客増加に繋がるという仮説が証明された。